

令和7年度 事業報告書 東山いきいき市民活動センター

【指定管理者:MACHISHIGOTO 合同会社】

1. 管理運営の状況

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 8 名（うち常勤 2 名、非常勤 6 名）

【人材育成の取組】

- ・各スタッフの専門性に合わせた OJT の実施
- ・窓口対応向上のための全体及び個別レクチャーの実施
- ・定期的な個人面談の実施
- ・より専門性を高めるための外部研修の奨励

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
516	583	579	574	562	641	657	621	611	566	563	571

(年間)

7,044 件（前年度比 102%）

イ 利用状況

利用総数は前年度より増加した、利用団体の増加も今年度は多かったのも起因しているのではないかと考える。今後もさまざまな形でのアプローチを試みていきたいと考える。

ウ 利用促進に向けた取組

今年度は新たに机の入れ替えや部屋の使用制限の緩和を行い、利用頻度の少ない部屋も利用が増えてきた様に思います、利用者様のニーズに合わせた部屋の運用を行いより一層新規利用団体の獲得に努めます。

エ その他

左京東部いきいき市民活動センターの廃止に伴い、これまで左京東部を利用されてきた団体の受け皿としてもしっかりと機能を果たしていきたい。また現在予約の 3 割ほどはオンライン予約によるものである、今後も利用者の利便性を高める運営を行います。

(3) 情報発信等

ア 取組実績

Instagram を活用した情報発信に力を入れてまいりました。投稿内容としては、センター認知度につながる情報に加え、センター事業に関する投稿や東山区にまつわる人や場所やものやイベントなどの発信だけでなく、センタースタッフの人となりを知っていただき、気軽に窓口相談いただけるよう工夫を行いました。

イ 取組の効果

各事業の報告を発信し続けたことで各事業への参加者の数も徐々に増加していきました。

(4) 管理運営

今年度も通常通り建築物の保守管理、保安警備業務、清掃業務、植栽保全、エレベーター保守点検等を実施しました。

(5) その他

ウェブ予約の周知を進めた結果、ウェブからの申し込みをされる団体も増えてきました。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】市民の「やりたい」を形にする対話型ワークショップ創出事業～東山しゃべくり大作戦～

事業の概要

- 1 開催日時：令和7年6月7日（土）10時30分～12時
令和7年11月26日（土）10時～12時
令和8年2月21日（土）11時～13時
- 2 開催場所：東山区総合庁舎1階展示ホール／古川趣蔵
- 3 参加人数： ①17名②28名③20名
- 4 協力団体等：東山くらしよし／栗田まちづくり協議会
- 5 予算： 610,000円 ／ 決算： 560,221円

1 事業内容

東山区内において、地域やまちづくりなどを含めた公益的な取り組みを行っている・または行いたい方々のつながりの場があまり存在しません。東山区の盛り上げ・新たな活動の担い手・既存の活動の担い手とのつながりの機会創出を目的とした「東山しゃべくり大作戦」を実施しました。

2 準備段階での工夫

1回目は通常版で東山区総合庁舎を活用し、参加者よりテーマを募り、対話を重ねました。
2回目では、「居場所づくり」をテーマに、ゲストスピーカーを2名お招きし、トークセッション後に来場者を交えて話し合いを行いました。3回目では、会場を当センターのすぐ近くにある「古川趣蔵」に移し、地域の方々との地域との協働による交流企画として実施しました。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

元々は区役所で実施されていた「まちカフェ」を継承し、年間4回程度、各回15名程度の参加者を見込みながら、センターの存在を知らない層にセンターの存在の周知と新たな担い手の発掘とネットワークづくりを目標に掲げていました。

（2）事業実施による目標の達成度

センターを飛び出して会場を変えて行ったことで、これまでセンターで開催していた時と比べて参加者層が若干変わってきました。テーマを持たせると、そのテーマに関心のある方が集ってきて、とても賑わいました。参加者の中から共創が生まれ、新たな活動層の発掘とマッチングに繋がりました。

4 今後の抱負

4年ほど継続した結果、参加者のマンネリ化と固定化が進んでいたため、今回は色々な形を試してみました。その中で、テーマを持たせた形の対話の場にはやはり需要があり、これまでつながりのなかった方の参加もあり、とても新鮮だった。今後についてはテーマ性を持たせた形で対話を重ねていく形式を模索していきます。

事業風景の写真



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】地域の学び直しの場づくりと地域活動の担い手創出事業 「みんなの学校ごっこ」

事業の概要

- 1 開催日時：令和7年9月20日（土）21日（日）10時～17時
令和8年2月8日（日）10時～17時
- 2 開催場所：東山いきいき市民活動センター全館、多目的ホール、東山区区役所
- 3 参加人数： 延べ880名
- 4 協力団体等：みんなの学校ごっこ実行委員会
- 5 予算： 910,000円 / 決算：915,935円

1 事業内容

みんなの学校ごっこは、まちの方々の知識やスキルを学びに変え市民活動への参加を促すとともに新たな活動の一助となることを目的に実施しています。まちのみなさんがスキルをセンセイとして教え、まちのみなさんが生徒になって学び合い教え合う場として開催しています。今年9月に東山いきいき市民活動センターそして2月に東山区役所で開催しました。

2 準備段階での工夫

今年度も実行委員会を組織し、公募で集まった市民の方たちと事業を構築していきました。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

多様な市民の方々がご自身のスキルや知識や経験を出し合える町にしていきたいという想いから、多様な「センセイ」の発掘と市民の有志による実行委員会の自主的運営を目標としていました。

（2）事業実施による目標の達成度

今年度も多くの方がセンセイとなりました、9月では70名、2月では45名の方が参加しました。事業を担うプレイヤー達が自身で考え実行していく取り組みも増えていき規模も昨年を上回るものとなり一定の事業効果をあげることができました。実行委員会も大学生や30代から50代までの多様な世代の方が集まる場にもなりました。センターを飛び越えての開催ではよりこの取り組みを拡げていく機会の創出ができました。

4 今後の抱負

9月開催については前年度を超える参加者となったが2月に関しては衆議院選挙と大雪であまり参加者が予想より振るわなかった、今後は開催日程についてもより熟考した上で行っていきたい。実行委員会ではより運営に関わってくれる人材を発掘していきたいと考えています。そのための準備を既存の実行委員と進めていけるように引き続きコーディネートを行なっていききたい。

事業風景の写真



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】地域課題・社会課題受発信事業(メディアセンター事業)

事業の概要

- 1 開催日時：令和7年4月～令和8年3月（月1回程度）
- 2 開催場所：東山いきいき市民活動センター
- 3 参加人数：①各回5名～10名程度②市民ライター3名③各15名程度
- 4 予算：1,400,000円／決算：1,467,745円

1 事業内容

① 動画製作集団の組織化「Social Echoes」

本事業ではソーシャルグッドな動画を制作し発信することで新たな地域活動やトレンドの表出と動画の発信の担い手の創出と新たな市民活動の担い手創出を行いました。月に1回程度の定例会議でメンバー同士の交流・技術の向上・動画企画の立案などを行い参加者の撮影と編集のサポートを行いました。

② WEBメディア「iINA」の発行・インターネットラジオ

『あなたのいいなが、まちのいいねに…』をテーマに、WEBメディア「iINA」は京都市東山区を中心に、市民の方に「それイイな、やってみよう」と思えるような、地域で活動する人の考え方や取り組みを発信しました。今年度は3名の市民ライターとともに、記事作成をしてまいりました。

インターネットラジオについては、ゲストとパーソナリティとの日程調整がうまくいかず、今年度は1回のみの発信になってしまいました。

③ 動画スクールの開校

令和8年1月と3月に動画制作初心者向け講座を開催しました。講師は東京でミュージックビデオや企業向けプロモーションを制作している西京極映像プロダクションが担当しました。2日間の講座ではアルファ米を使った防災食を撮影テーマに撮影の基礎から動画の編集までを行いました。

2 準備段階での工夫

多様な方が参加できるよう、SNSや広報ツールを使用し、メンバー獲得に注力し、コミュニケーションの機会も多く持てるように工夫しました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

より多くの方々に発信の担い手になっていただけるよう、チームづくりと発信機会の創出を目指していきました。

(2) 事業実施による目標の達成度

①については複数の作品を同時並行で動画制作を行い制作のペースを上げることにつながりました。②については市民ライターが執筆しました。③については多くの方に受講いただき、数名の方には①に参加していただき継続して動画製作をおこないました。

4 今後の抱負

昨年度より制作の頻度が上がり参加者が集まる機会も増えました、今後も活発に活動していけるように体制を整えていきたい。SNSや動画制作の新たなトレンドをメディアセンター事業にも取り入れていきたいと考えています。

事業風景の写真



はじめて動画制作をしたいあなたに！ 超入門動画スクール

2026
3 / 7 ± 8 日
全2回 各回 13:00 ▶ 16:30

西京極楽プロダクション・映像クリエイター
講師：岡 泰平/若崎 浩

東京を拠点にMV制作、企業向け動画をメインに活躍している映像クリエイターユニット。
「何かに挑戦している人の活動」を映像を通して発信したいという思いをもち、2人で自身の活動をもっと上げる。両者とも京都では制作会社に勤務し、また京都・神戸で撮影や制作の経験があるプロデューサー、ディレクター、カメラマンとしても活動。【映像と現場で学べる動画制作】をメインコンセプトに、受講者を動画制作の初心者から実践的な映像制作に取り組む。

場所 京都市東山いきいき市民活動センター
3階ワークルームA

内容 1日目：動画撮影の基礎
実際にカメラを使いながら撮影を行います
2日目：動画編集の基礎
PCを使って動画編集のレクチャー、講師からの制作動画の講評

定員 先着15名
定員になり次第締め切り

参加費 無料

受講後のご案内
センター主催のソーシャルグッドを発信するメディアチームSocial Echoesで引き続き動画制作を行うことができます。ぜひそちらにもご参加ください。

主催：お笑いおねずみ/京都市東山いきいき市民活動センター
TEL:075-541-5151 MAIL:kyogoshima.kisei@nagasaki.jp
〒605-0011 京都市東山区南禅寺4-2-2
月・火・水曜日 / 10時~21時 木曜日 / 10時~17時 (休曜日・休平日・年末年始)
アクセス 京都市営地下鉄「山崎駅」(東山線) 徒歩15分 京都市営バス「山崎駅」バス停より徒歩10分
※この大会は全米大会出場権を争う大会です。
※大会は全米大会出場権を争う大会です。
※大会は全米大会出場権を争う大会です。

Social Echoes

@socialechoes3716 - チャンネル登録者数 178人・58本の動画
「Social Goodを世の中に発信」をテーマに動画を発信しております。...さらに表示

チャンネル登録

ホーム 動画 ショート 再生リスト

新しい動画 人気のある動画 古い動画

美味しい防災食のススメ
防災食のススメ
15:03視聴 - 1ヶ月前

Ride smart, stay polite
japan's Rules! What to know before you ride
日本のルール：スマートに乗る電車マナー
3:01視聴 - 8ヶ月前

日本初！ゴミを出さないスーパーマーケット「ふくみ」
日本初！ゴミを出さないスーパーマーケット「ふくみ」
14:02視聴 - 10ヶ月前

nuts link〜SDGsなモノ紹介〜
nuts link〜SDGsなモノ紹介〜
3:02視聴 - 11ヶ月前

WORK RULE SHIFT KYOTO (インタビュー)
WORK RULE SHIFT KYOTO (インタビュー)
〜これまでにない新しい働き方、21世紀〜
5:04視聴 - 1ヶ月前

みつるうらップ〜SDGsなモノ紹介〜
みつるうらップ〜SDGsなモノ紹介〜
7:00視聴 - 1ヶ月前

my mizu アリー〜SDGsなモノ紹介〜
my mizu アリー〜SDGsなモノ紹介〜
6:00視聴 - 1ヶ月前

藤崎けいカルタ〜SDGsなモノ紹介〜
藤崎けいカルタ〜SDGsなモノ紹介〜
3:02視聴 - 1ヶ月前

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】e スポーツ・アナログゲームを通じた世代間交流事業

事業の概要

- 1 開催日時：令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月
- 2 開催場所：東山いきいき市民活動センター／東山区役所
- 3 参加人数： 延べ 120 名
- 4 予算： 240,000 円 / 決算： 230,381 円

1 事業内容

e スポーツを通して、多世代の交流をおこなうことを目的に事業を行いました。会場はセンター3階の撮影室を PC ルームに1部転用しました。e スポーツチーム『おいなり』を組織化し、月1回程度、活動を実施しました。

2 準備段階での工夫

SNS などを活用し、活動の周知などを行なっていました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

近年市民権を得てきている e スポーツを活用し、多世代交流事業を行うことで多様な人々のつながり・連携を生み出していきたいと考えていました。

(2) 事業実施による目標の達成度

今年度も引き続きボランティアと協力し e スポーツの経験がなくとも参加しやすいように工夫して実施しました。チームおいなりとして活動し公式サイトを作成や SNS などにも力を入れ、広報活動も拡大していきました。小学生や大学生、高齢の参加者など様々な世代が参画し交流したことで目標が達成に繋がりました。今年度よりサロン除却によりこれまでと活動場所が変わり設備の移設などもありましたが、参加者とともに新たな場を構築することができました。

4 今後の抱負

今後も新たに参加者を増やす取り組みとして広報活動を強化するとともに、チームとして目標を設定し広報用のコンテンツをこちらで作っていききたいと思う。

事業風景の写真



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】地域の多世代交流拠点創出事業

“地域の縁側” ひがしやまオープンガーデン・Free coffee

事業の概要

- 1 開催日時：令和7年4月～令和8年3月
- 2 開催場所：東山いきいき市民活動センター 中庭
- 3 参加人数：各回約15名
- 4 予算： 240,000 円 / 決算： 207,563 円

1 事業内容

本事業では、地域の方々や利用者などが気兼ねなく交流できる場づくり“地域の縁側”として、センターの中庭を活用したアーバンファームを実施します。月に1回程度、畑づくりを通して緩やかに交流する“地域の縁側”的機能をセンターに付与させていきたいと考えています。また、館内や出張版という形で Free coffee を実施し、参加者や利用者同士の緩やかな交流を生み出していきます。

2 準備段階での工夫

興味ある方々にやってもらうのではなく、センター職員と一緒に汗をかき楽しむところから始めていきました。SNSでグループを作り、常に情報発信と共有を行い、誰もが参加しやすいように工夫していきました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

中庭の利活用を通じて多様な方が集うきっかけを提供することを目的として始めました。

(2) 事業実施による目標の達成度

「オープンガーデン」では、月1回の定期活動に留まらず、参加者が日常的に中庭を訪れ、自主的な手入れや玄関への植栽を行う姿が見られました。施設が単なる「利用場所」から、市民が主体的に関わり愛着を持つ「自分たちの居場所」へと深化したと言えます。多様な関心層が交差する人の流動と出会いの創出を実現しました。「Free Coffee」では、館内ロビーや他事業へのお出張版として実施したことで、コーヒーを媒介に世代や属性を超えた会話が自然に生まれ、緩やかな交流の入口を創出しました。

4 今後の抱負

季節に左右されない交流の循環を仕組み化することが課題です。また、参加者の「花を植えたい」「手伝いたい」という自発的な意欲をより円滑に受け止めるため、活動内容を館内で共有するコミュニケーションボードの設置など、誰もがいつでも関わりやすい環境の整備が必要だと感じます。本年度実施した出張版「Free Coffee」の手応えを踏まえ、次年度はさらに地域の公共スペースや他団体との連携先を拡大し、センターに足を運ぶ機会が少ない層へのアウトリーチに挑戦します。

事業風景の写真



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】地域の多世代交流拠点創出事業 さわげる図書館プロジェクト

事業の概要

- 1 開催日時：令和7年4月～令和8年3月 隔月の第2日曜日
- 2 開催場所：東山図書館
- 3 参加人数：各回約30名
- 4 予算： 230,000 円 / 決算： 226,412 円

1 事業内容

令和6年度から試験的に開始した東山図書館との連携による「さわげる図書館プロジェクト」を令和7年度でも引き続き実施していきつつ、図書館だけではなく多様な公共空間の価値の再定義を図るプロジェクトを生み出していました。

2 準備段階での工夫

運営に京都女子大学ロールプレイ&アクション研究会や「京亀」といった、アナログゲームに精通している市民団体やサークルとの協働にも発展し、また一緒に運営しているキッズ用品交換会「ぐるり京都」との協働により執り行うよう工夫しました。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

公共空間の利活用を進めていくにあたって、これまで暗黙の常識となっている部分を見つめ直すことで、実はブレイクスルーすることができることがあるかもしれません。公共空間の一つである図書館についても、現状の課題として小さなお子さん連れの親御さんが、どうしてもうるさくしてしまう子どもを叱りながら、周囲に「すみません」と謝りながらそそくさと帰ってしまう現状の図書館に、「騒いでもいい」という目を作ることで、少しずつ「うるさい」から「にぎやか」にイメージを変えていくことができるのではないかと考え、キッズ用品交換会とボードゲームパーティをセットにした「さわげる図書館プロジェクト」を実施することになりました。

（2）事業実施による目標の達成度

図書館からも、この企画を通じて新たな利用層の獲得につながったと評価いただきました。また、運営に京都女子大学ロールプレイ&アクション研究会や「京亀」といった、アナログゲームに精通している市民団体やサークルとの協働にも発展し、また一緒に運営しているキッズ用品交換会「ぐるり京都」とも良好な関係性を築き上げることができています。

4 今後の抱負

この企画を皮切りに、図書館という公共空間の利活用のプロトタイプ事例を発信していき、多様な公共施設でも横展開できるように進めていきたい。

事業風景の写真



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】地域の学び直しの場づくりと地域活動の担い手創出事業

地域をもっと楽しくする！あなたのアイデアを形にする講座

事業の概要

- 1 開催日時：令和7年4月19日、26日、5月10日、17日 いずれも13時～16時
- 2 開催場所：東山区総合庁舎
- 3 参加人数：各回約8名
- 4 予算： 200,000 円 / 決算： 50,000 円

1 事業内容

東山区役所と連携し、新たに活動を始めたい方々を生み出していくセミナーを開催しました。このセミナーを受講し、そのまままちづくり助成事業にチャレンジするという流れを作ることで、区役所が抱える課題と東山区全体で新たな活動層の輩出を生み出していきました。

2 準備段階での工夫

区役所と協議し、区役所のまちづくり助成金への接続を意識したプログラム構成にすることを工夫しました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

全4回の講座に、申込者は8名でした。4回を通じて新たな活動づくりへと結びつけることができたのは4名でした。そして、東山区のまちづくり助成事業への接続を考えていたが、残念ながら参加者の中からそこまでチャレンジできる活動へと育て上げることができなかった。

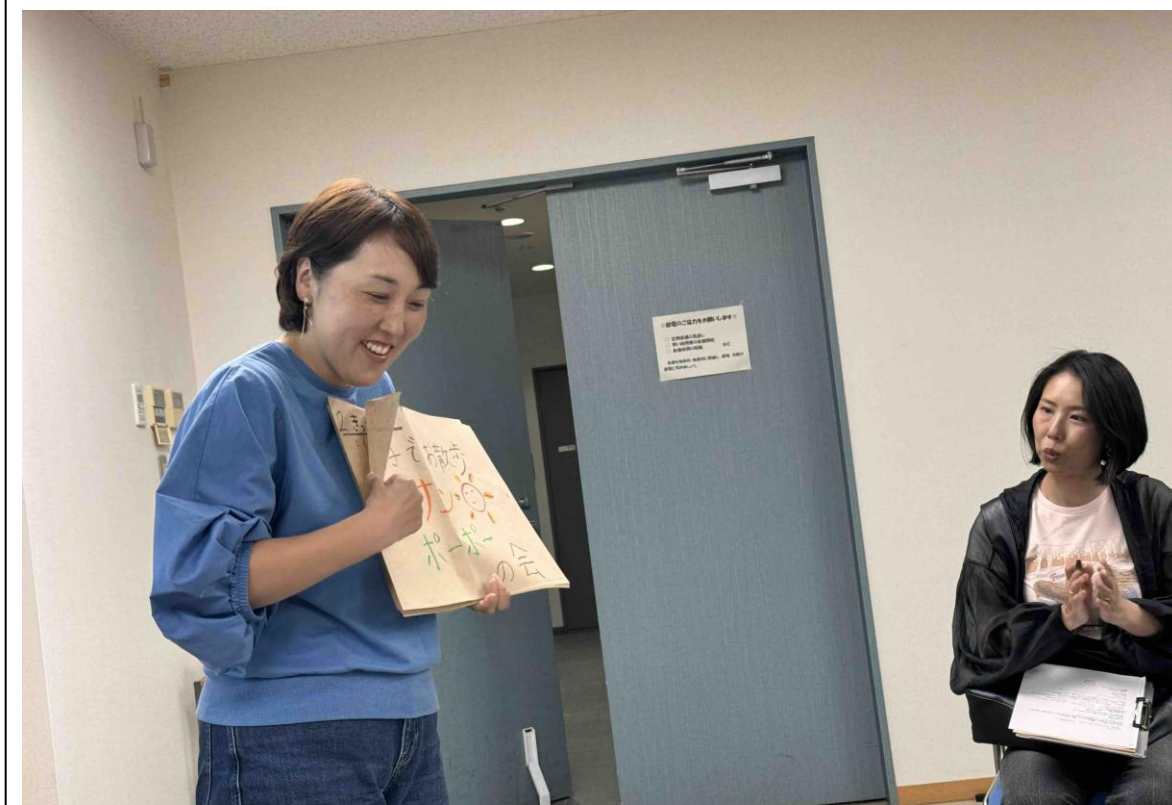
(2) 事業実施による目標の達成度

今回、区役所との連携事業としてプロトタイプ的に始めた事業に、8名の申し込みがあり、最終的に4名の方が最後まで参加し、乳幼児を対象とした居場所づくり事業や子育て情報発信事業など、新たな活動が生まれた。

4 今後の抱負

助成金へのチャレンジには今回は結びつきませんでしたが、地道に新たな活動層を増やしていくことがゆくゆくは地域の活性化につながると考えます。引き続き取り組んでいきたいと考えています。

事業風景の写真



3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1 利用料金の収入実績

令和 7 年度実績：11,772,430 円（前年度比 97%）

（内訳 会議室等：10,893,800 円
 付属設備：52,290 円 ※自主事業分を除く
 スモールオフィス：826,340 円

2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

（1）全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和 7 年 11 月実施

【調査項目】窓口サービス

（2）センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

2 利用者満足度把握の結果

① 案内表示は分かりやすかったですか。

満足	普通	不満	無回答
67.3%	31.7%	1%	0%

② あいさつやお声かけはきちんとできていましたか

満足	普通	不満	無回答
72.1%	26.9%	1%	0%

③ 身だしなみは業務にふさわしいものでしたか

満足	普通	不満	無回答
68.3%	31.7%	0%	0%

④ 表情や態度は感じが良かったですか。

満足	普通	不満	無回答
74%	23.1%	1.9%	1%

⑤ 言葉づかいや説明は、親切で、ていねいでしたか。

満足	普通	不満	無回答
78.8%	19.2%	2%	0%

⑥ 説明は的確で分かりやすかったですか。

満足	普通	不満	無回答
70.2%	27.9%	1.9%	0%

⑦ 整理、整頓は行き届いていましたか

満足	普通	不満	無回答
66.3%	30.8%	1.9%	1%

3 意見等への主な対応状況

○ 利用者からの意見で対応したものを記載してください。

各貸室の Wi-Fi 設備の増設や事務処理や窓口対応の迅速化の為に IT を活用した。

要望が多かったトイレの洋式化工事を実施した。

研修などでスタッフの質の向上を図った

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

- ・ 取り組んだ事業等の総括を記載してください。

これまで、利用の用途を制限していた結果、あまり使われていないお部屋として、202と301の2部屋が挙げられます。この2部屋の利用用途を音楽・運動利用可能に変えたことで、若干利用件数の改善につながったと考えます。

また、和式トイレを洋式に修繕ができたことで、これまで要望が多かったトイレの洋式化問題に終止符を打つことができ、満足度向上につながったと考えます。

- ・ 次年度に向けた対応について記載してください。

夏日の気温上昇に伴うお部屋の温度管理について、どうしても日差しが厳しいお部屋については利用者からも何か対策を講じてほしいという要望がありますので、何か対策を検討して利用満足度の向上に努めたいと考えています。